

症例リスト記載に関する注意事項

1. 診断・病理情報

- ・ 診断名は日本語または英語のいずれでも可とする。略語は初回にスペルアウトする。
- ・ 生検部位・検体情報は任意とする。
- ・ 病理診断には以下の情報を含めることが望ましい：
 - FNCLCC 分類 (Grade、各スコア)
 - 免疫染色結果 (主なマーカーのみ)
 - 特筆すべき病理学的所見 (例: 核分裂像、壊死、分化度など)

2. 治療と転帰

- ・ 手術症例では術式を簡潔に記載する。
- ・ 放射線治療では照射部位・線量・分割 (Gy/fr) を記載する。
- ・ 薬物療法では薬剤名およびレジメン名を記載する。標準量の省略は可するが、減量時は記載する。
- ・ 治療効果・副作用も簡潔に記載する。
- ・ 緩和ケアに関する記載を含めることが望ましい。
- ・ 研究的な治療は「臨床試験」と明記する (試験名や試験番号は不要)。
- ・

3. 考察

- ・ 症例に関連した臨床的・学術的な考察を中心に記載する。
- ・ 標準治療からの逸脱がある場合はその理由と妥当性を簡潔に記載する。
- ・ 文献出典 (文献名・雑誌名・年) やガイドラインの引用は必須ではない。記載する場合でも最小限にする。
- ・

4. 略語について

- ・ 原則として、初回でスペルアウトする。
- ・ 汎用されている略語はスペルアウトせずに使用して可 (別紙)。
- ・

5. 個人情報保護

- ・ 「治療と転帰」に年月を記載しない。代わりに「術後〇ヶ月」「治療開始後〇週」などの相対時間で表現する。
- ・ 年齢・性別は記載可。ただし、年齢は「〇歳代」などの表現が望ましい。

別紙

スペルアウトせずに使用してよい略語(例)

薬剤名 (参照「新臨床腫瘍学」南江堂)

ACT-D(アクチノマイシン D)	PAC(パクリタキセル, PTX でもよい)
CDDP(シスプラチン)	TRB(トラベクテジン)
CBDCA(カルボプラチン)	VBL(ビンブラスチン)
CPA(シクロホスファミド)	VDS(ビンデシン)
DOX(ドキシソルビシン, DXR でもよい)	ERB(エリブリン)
DOC(ドセタキセル, DTX でもよい)	PAZ(パゾパニブ)
ETP(エトポシド, ETOP でもよい)	REG(レゴラフェニブ)
5-FU(フルオロウラシル)	CAB(カボザンチニブ)
IFO(イフォスファミド, IFM でもよい)	PEMB(ペムブロリズマブ)
(-)-LV(ホリナート, レボホリナート)	NIV(ニボルマブ)
MTX(メトトレキサート)	

レジメン等(末尾に「～療法」)

VAC 療法(VCR+ACT-D+CPA)	VDC 療法(VCR+DOX+CPA)
VAIA 療法(VCR+ACT-D+IFO+DXO)	VDC-IE 療法
ICE 療法(IFO+CBDCA+ETP)	AI 療法(DXO+IFO)
IE 療法(IFO+ETP)	GD 療法(GEM+DOC)
MAP 療法(MTX+DXO+CDDP)	TC 療法(PAC+CBDCA)
AP 療法(DXO+CDDP)	BSC

効果判定・臨床試験

CR, PR, SD, PD, ORR, DCR(Disease Control Rate), PFS, DFS, RFS, EFS, OS
HR(Hazard Ratio), CI(Confidence Interval)

その他

PS(Performance Status)
RECIST(Response Evaluation Criteria in Solid Tumors)
CTCAE(Common Terminology Criteria for Adverse Events)
QOL(Quality of Life)
SIOP(International Society of Paediatric Oncology)
JCOG(Japan Clinical Oncology Group)
COMPRESS(人工関節固定システム)
LSS(Limb Salvage Surgery: 患肢温存手術)